

日本小学生バレーボール連盟 令和 7 年度全国審判講習会資料

日本小学生バレーボール連盟 競技委員会

○小学生バレーボール大会における競技取り扱いについての共通理解

1. テクニカルタイムアウトについて

※テクニカルタイムアウトは選手の健康と安全のために適用されるものであることを再確認し、選手の給水や健康観察を最優先させること。

- ・選手はベンチ横からウォームアップエリアの間の位置に 30 秒間とどまること。
- ・テクニカルタイムアウト中は、ウォームアップはできない。
- ・ベンチスタッフの声かけは、健康観察のためのものである。

○全日本バレーボール小学生大会全国大会においては、小学生バレーボール競技規則の通り各セット 1 回のテクニカルタイムアウトを適用する。

デュースが続く場合の取り扱い

第 1、第 2 セットでは、両チームが 31 点に達したときに適用し、その後は 10 点ずつ積み重ねた段階で適用する。3 セット目は両チームが 21 点に達したときに適用し、その後は両チームが 7 点ずつ積み重ねた段階で適用する。

○都道府県大会等において、会場に空調設備がなく、選手の安全が確保できないと大会実行委員が判断した場合には以下のように適用してもよい。

テクニカルタイムアウトを 2 回適用する場合の取り扱い

第 1、第 2 セットでは、リードしているチームが 7 点と 14 点に達した時、第 3 セットはリードしているチームが 8 点に達した時、チェンジコート後に適用する。デュースが続く場合、1～2 セットは両チームが 25 点に達したときに適用し、その後は両チームが 7 点ずつ積み重ねた段階で適用する。また、3 セット目は両チームが 21 点に達したときに適用し、その後は両チームが 7 点ずつ積み重ねた段階で適用する。

2. ユニフォームについて

①ユニフォーム規程

選手番号

都道府県名の大きさと位置 チームネームより小さい（高さ） 袖か襟下

②パンツにチーム名を入れることについて

JVA 競技普及推進部からの回答

入れてもよいが、細かな規定（大きさ等）は、今後検討していくことになる。

③混合の男女判別

男女で違うユニフォームを着用すること。ただし、違うユニフォームを用意できない場合や、違うユニフォームであっても類似して一目で見分けがつかない場合には、ソックスの色を変えるかまたは男子・女子のいずれかが識別用バンドを腕か足首に付けて一目で判別できるようにすること。

※審判委員が一目で判別できることが大前提

③ウェア等公認制度について

2025年版がHP「競技関係情報・各種様式」に掲載されている。1社追加

3. ベンチへの持ち込み物について

①飲料水の水筒→ペットボトルは不可だが、スクイズボトルや吸引式のボトルでなくてもワンタッチ式の蓋つき水筒であれば問題ない。

②キャンプカート→安全面、屋外の汚れを入れない観点から**使用禁止**

③スマートウォッチ→時計としての使用は認める。(通信機器やカメラとしての**使用禁止**)

② ③については昨年度確認済みで、大会でも守られていた。

① について、ベンチスタッフ、審判委員等大人のペットボトル使用を認めるかは、各大会の実行委員会にて施設等の決まり等を確認して判断する。

4. 試合中の応援団グッズの使用及び応援マナーへの対応について

平成19年に、監督から選手への指示の声が聞こえなかったり、選手が集中できなかったりするという理由から、太鼓・ラッパなどの大音量を発生する「鳴り物」は複数コートで試合をしているときには使用しないとの通知がされ、現在も適用されています。メガホンやバルーンは鳴り物にはあてはまらず、使用については規制してはおりません。

応援によって選手を励まし、大会を盛り上げることは素晴らしいことであるが、反面応援が選手にとってマイナスとなるケースも見られるので、応援のマナーとして特に以下の点について指導していくこと。

- ・審判のホイッスルが聞こえなくなるようなプレー中の応援はしないこと。
- ・相手チーム自チームに限らず、選手が萎縮してしまうような罵声はださないこと。

○全日本バレーボール小学生大会について

1. ユニフォーム確認について

45回大会においても、都道府県大会において各都道府県競技委員長により確認をする。
ただし、今大会ベンチ入り選手が14名になったことから、**13・14番については、今大会に限りユニフォームが揃わない場合にはTシャツにゼッケン等で番号を入れる、違うユニフォームにビブスを着て番号を変えるなどでベンチ入りを認める。**

2. 他の都道府県在住選手に関する新年度移籍登録選手の確認について

資料「他の都道府県在住選手に関する新年度移籍登録選手の確認方法について」

資料「他の都道府県在住の新年度移籍登録選手一覧表」

日小連 HP「競技関係情報・各種様式」に掲載されている。

44回大会においては、該当選手は1名

3. 試合間のチームの入れ替えについて

資料「審判委員とコート委員の連携と役割分担」

可能な限り、ブロック大会や都道府県大会でも運用してほしい。

審判委員と競技(コート)委員の役割・連携について

	時 間	チー ム	審判員	コート委員
1		準備・待機	・スコアーシートの準備。 ・ネットの高さや張り具合、アンテナの位置 などチェックする。	コートチェックと用具の確認をする ・試合球 ・ボール拭き ・ボールスタンド ・フラッグ ・カード ・ブザー ・得点板 ・チーム名盤 ・ネット ・白帯 ・アンテナ ・ラインテープ
2	第1試合プロトコール 開始5分前	競技エリアの外で待機する。審判員とともに コートに入り、練習を開始する。 ネットは使用しない。	試合のチームを競技エリア外で待機させる。競 技(コート)委員の合図で、試合チームとともに コートに入る。 試合前のチェックを行う。ライン ジャッジの確認。	審判員に、コート入場OKの合図を送る。チーム の持ち込み備品等の確認。プロトコールまでにラ インジャッジが来ない場合は、放送での呼び出し を依頼する。
3	プロトコール	トスをし、監督とキャプテンはサインをする。 ユニフォームで公式練習に入る。 ラインナップシートを提出する。	プロトコールを進める。ゲームに必要な道具 のチェック。ラインジャッジと打ち合せを行 う。	ユニフォームやチームの持ち込み備品確認
4	試合中		ゲームコントロール	コートサイドで待機する。 コート、用具の不具合を発見した場合や審 判員の呼び出しに対応する。
5	第1試合終了	○試合終了のチーム 監督と審判は握手する。 キャプテンのサイン後は、速やかにベ ンチから退出する。※ラインジャッジや 得点などの割り当て準備をする。	○試合終了した審判員 監督と握手する。ラインジャッジに御礼を伝 える記録用紙の記入を完了させる。(キャ プテンからサインをもらう) ※状況によっては 記録席から他の場所へ移動して記入する。	キャプテンのサイン後は、チームは速やか に競技エリア外に出るよう促す。 コート、用具の確認、及びチーム名盤の入 れ替えをする。 フラッグを回収し、消毒をする。
		○次試合のチーム 競技エリアの外で待機。	○次試合の審判員 次試合のチームを競技エリアの外で待機さ せる	
6	第2試合プロトコール 開始5分前	審判員とともにコートに入り、練習を開 始する。	競技(コート)委員の合図を受けて、 試合チームとともにコートに入り、試合開始 の準備をする。	審判員に、コート入場OKの合図を送る。 担当審判員と当該チームにプロトコール開 始時刻を連絡する。

以降 3～6のくり返して進める。

6の時間について

※連続試合となる場合には、試合間を15分空けることができる。

※プロトコールの設定時刻は5分単位で行う。 例:前の試合が10:12終了の場合、10:20もしくは10:25からプロトコールに入る。